

高等学校における通級による指導実践研究校事業中間報告書

## 「高等学校における通級による指導」

～特性に応じた効果的な指導が行える通級の継続的な運営～

山梨県立ひばりが丘高等学校

担当 武川 晃二

坂本 洋子

渡邊浩太郎

渡辺孝太郎

広瀬 昂

米山 和成

山梨県富士吉田市上吉田東4-3-1

(TEL) 0555-22-8015

(FAX) 0555-22-8016

## 1 研究のねらい

現在、本校を含めた定時制・通信制高校は、小・中学校時代に環境に適応できなかった生徒たちの学び直しの場としての役割がより求められるようになってきている。発達障害を有する生徒や不登校経験者の割合は年々増加傾向にあり、人間関係を構築する力やコミュニケーション能力に課題のある生徒の数が増えているように感じる。個々の生徒の実態が異なるため、全体指導だけではなく個別に対応することが必要となっている。今後、こうした生徒の顕在化が一層進むことが想定されるため、より組織的・長期的な指導の在り方を構築していく必要がある。

本校では、令和2年度より通級による指導を開始した。併せて山梨県教育委員会「高等学校における通級による指導」実践研究校事業の研究指定校として、通級による指導の実践・研究を行った。

### (1) 令和2・3年度の研究

履修者全員に対して同様の授業展開をするような授業計画のモデルを作成・実践を行ってきた。通級による指導は、生徒一人一人の実態に合わせて指導内容を計画・実践していくことが大前提であるが、全体指導が中心の高等学校において、生徒一人一人に対して個別の指導内容を組み立てていくことは難しい。本校ではまだその体制が確立されておらず、今後、個別の指導を展開していくためには、本校職員に特別支援教育の考え方が浸透していく必要がある。まずは、この現状の中で高等学校における通級による指導が実践できることをねらいとした。上記のような課題を抱える生徒が、「(特別支援学校学習指導要領に示されている) 自立活動の内容を参考にした授業を通して、自分の特性等を正しく理解し、心理的な安定や人間関係形成能力やコミュニケーション能力を高め、校内外の環境への適応を円滑にする」、「卒業後の適切な就労に対する見通しをもつ」ことができるよう計画し指導を実施した。

### (2) 令和4年度からの研究

現在の本校の体制状況から個々の生徒の実態に合わせて指導ができるように、実態把握のツール、手立ての蓄積、評価の仕方などを主眼に置き、今後の校内体制や構成人員が変わったとしても継続して指導を行うことができる仕組みづくりをねらいとした。生徒の実態に合わせた指導を行うためには、(本人・保護者の教育的ニーズを含む) 正確な実態把握やねらいを達成するための手立て・支援、学習に対する評価、学習後の実態把握といった流れをつなげていくことが重要である。そのためのツールを作成し、通級担当や年次職員との切れ目ない連携ができればと考えている。実態把握をするための観点や自立活動の目標の立て方など、特別支援教育に関する専門性を高め、通級による指導の発展を目指している。

この研究を通して、個々の特性に応じた今後の特別支援教育の拡充と継続性をより深化させ、本校の教育全般に特別支援教育を浸透させていくことが目的である。

## 2 研究体制・組織

本校は、昼間部、夜間部の2部制定時制高校であり、昼間部には普通科と情報経理科、夜間部には普通科を配置している。

### (1) 学校概要（令和4年度5月1日現在の状況）

#### ア 課程・学科別、男女別生徒数

部	年次	普通科		情報経理科		合計
		男	女	男	女	
昼間部	1年次	7	6	2	8	23
	2年次	5	6	5	7	23
	3年次	6	8	2	8	24
	4年次	4	7	2	1	14
	合計	22	27	11	24	84
夜間部	1年次	1	1			2
	2年次	1	0			1
	3年次	2	2			4
	4年次	1	0			1
	合計	5	3			8
男女別合計		27	30	11	24	92
学科別合計		57		35		

#### イ 教職員構成

職名・教科		常勤	非常勤	通級担当
校長		1		
副校長		1		
教頭		1		
教諭	国語科	4		1
	地歴公民科	2	1	
	数学科	4	2	3
	理科	2		
	保健体育科	3	1	
	芸術科	0	3※	
	家庭科	1	1	
	英語科	3	1	2
	商業科	5(1)※		1
	養護教諭	1		
実習助手		1		
ALT		1		
事務職員		1	1	

※ 芸術科は、音楽、美術、書道に各1名

※ 商業科1名研修中

### (2) 校内委員会（「通級による指導」に関わる生徒支援委員会）

年3回実施し、研究の進捗状況の確認や単位認定、新規履修者の決定を行う。

### (3) 指導体制

#### ア 担当者

高等学校教諭免許を持ち、特別支援教育に関する知識・経験をもつ4名が引き続いて担当（特別支援学校からの交流人事による1名を含む）している。令和4年度より3名の教員が新たに担当に加わり、計7名である。

#### イ 授業形態

担当が複数の形を取り、CT、ST※①に役割を分けて実施するチームティーチング。

- ※①
- ・CT（チーフティーチャー）…主として授業を展開する
  - ・ST（サブティーチャー）…生徒の反応を見ながらCTを補佐、生徒を支援する

ウ 授業担当者以外の授業参加

「通級による指導」の周知と今後の体制強化を目的とし、全校教員が年2回程度、ゲストSTとして授業内で指導する機会と「通級による指導」内で職員室等で教員に関わる活動も導入している。

### 3 研究の内容と進行状況

昨年度から継続して実施していることに、今年度新たに実施したことを含めて実践を報告する。

※ 今年度の新たな取り組みは下線を施してある。

(1) 教育課程編成

ア 1校時から10校時までの45分間授業を実施

- ・ 昼間部は1～4校時、夜間部は7～10校時が基本的な授業時間であり、年間19単位（LHRを含まない）を履修・修得することができる。通常は4年間で卒業（74単位以上修得）できる。
- ・ 5・6校時の授業を履修・修得することで3年間での卒業を目指すことができる。

イ R2年度より学校設定教科【自立活動】学校設定科目【ライフスキルⅠ・Ⅱ】を開講（以下、「ライフスキル」を「LS」と表記する）

- ・ 本校の生徒2年次以降で履修可能。
- ・ 5・6校時の時間帯に開講。
- ・ LSⅠ・LSⅡともに2単位とし、卒業までに最大4単位履修・修得が可能。
- ・ 履修、修得の順序は、LSⅠ、LSⅡの順。

ウ R4年度昼間部・夜間部（普通科）2年次生徒の場合の時間割

部	時間	月	火	水	木	金	年間単位
昼間部	1	10:10～10:55	世界史A	C英語Ⅰ	読み解く 国語	家庭総合	読み解く 国語
	2	11:00～11:45					
	3	12:45～13:30	芸術Ⅰ	体育	総合的な探究 LHR	C英語Ⅰ	地学基礎
	4	13:35～14:20					
	5	14:40～15:25	LS 自立活動	伝え合う 国語	体育	数学史研究 情報の科学 課題研究【商】	～8単位
	6	15:30～16:15					
夜間部	7	16:45～17:30	家庭総合	芸術Ⅰ	読み解く 国語	世界史A	C英語Ⅰ
	8	18:00～18:45					
	9	18:50～19:35	体育	地学基礎	総合的な探究 LHR	C英語Ⅰ	読み解く 国語
	10	19:40～20:25					

(2) LS 履修前から卒業までの流れ

生徒の流れ	取り組み内容
通級 履修前	◎通級による指導を始めるための準備期間（アセスメント期間）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な懇談や気づき調査等を実施し、生徒の躓きから生じる困り感・課題点等を把握する</li> <li>・本人、保護者との関係づくり、「通級による指導」の理解を促す</li> <li>・以下の点について確認し、履修を進めていく。</li> </ul> <b>【LSの履修について】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として本校2年次以上の生徒であること</li> <li>・生徒・保護者ともに個別の教育支援計画・指導計画の作成を希望していること</li> <li>・生徒・保護者ともに通級による指導の履修を希望していること</li> <li>・校内委員会（通級による指導に関する生徒支援委員会）において、履修させることが望ましいと認められること</li> </ul>
通級 履修	◎LSⅠ履修
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性・課題点を把握し、改善・克服するために指導・支援する</li> <li>・良好な人間関係を築くためのスキル及びコミュニケーションスキルを指導する</li> </ul>
卒業年次	◎LSⅡ履修
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な進路選択をするために、自分に合った職種等を生徒と一緒に考える</li> <li>・インターンシップを設定する</li> </ul>
卒業年次	◎進路決定に向けて
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの通級による指導を踏まえ、進路指導を行う</li> <li>・（必要に応じて）外部機関と連携し、密にしていく</li> </ul>

(3) 個別の指導計画、評価と単位認定

ア 通級による指導の授業（LSⅠ・Ⅱ）を履修する生徒に対して、個々の計画等（個別の教育支援計画、個別の指導計画）を作成する。個々の特性についての改善・克服が各々の生徒の目標となり、年間授業計画に沿って指導を行う。

イ 校内委員会（「通級による指導」に関わる生徒支援委員会）で個別の指導計画の評価を議する。個々の目標の達成が承認されることで、単位認定とする。

(4) 令和4年度LS担当者年間予定

時期	内容	※ 授業の打ち合わせは、毎週行っている
4月	係打ち合わせ(1)	業務、役割、年間のスケジュール確認、自立活動・指導方法などの確認
	情報交換会①	気になる生徒の情報共有（個別の教育支援計画の一部内容を提示）
	運営委員会・職員会議	「通級による指導」の今年度の取り組みの説明
	指導開始	

	個別の指導計画	1学期目標の立案
5月	運営委員会・職員会議	年間授業計画・個別の指導計画・授業参加スケジュール 提示
6月	係打ち合わせ(2)	気づき調査、インターンシップ、支援委員会、個別の教育支援計画の確認
	インターンシップ準備	企業との打ち合わせ
	運営委員会・職員会議	気づき調査の実施と依頼 (①教科担当 ②年次職員) インターンシップ受け入れ企業の報告
	個別の指導計画	1学期評価・2学期目標の立案
7月	三者懇談	「通級による指導」についての通知を1年次生を中心に配付
	生徒支援委員会①	1学期の評価・実施報告
	インターンシップ事前挨拶	生徒を引率し、事前挨拶を行う
8月	インターンシップ(1期)	事前学習・巡回指導・事後学習
	係打ち合わせ(3)	新規LS希望者懇談、インターンシップについて
	情報交換会②	気づき調査結果報告
10月	係打ち合わせ(4)	新規LS希望者進捗状況、インターンシップ、支援委員会について
	面談(履修希望者対象)	通級担当者が中心に行い、通級の説明と授業見学を促す
	運営委員会・職員会議	インターンシップ(1期)の報告
11月	運営委員会・職員会議	インターンシップ(2期)受け入れ企業の報告
12月	係打ち合わせ(5)	新規LS希望者進捗状況、インターンシップ、支援委員会について
	個別の指導計画	2学期評価・3学期目標立案
	生徒支援委員会②	2学期の実施報告、新規LS希望者進捗状況
	インターンシップ(2期)	事前学習・巡回指導・事後学習
1月	係打ち合わせ(6)	新規LS希望者懇談、支援委員会
	情報交換会③	生徒情報の共有
	運営委員会・職員会議	インターンシップ(2期)の報告
	個別の指導計画	3学期評価
2月	面談(履修希望者の保護者)	通級担当者が履修希望者の保護者のみと行う 細かな情報についての聞き取り
	生徒支援委員会③	年間授業実施報告、年間評価(個別の指導計画)、次年度履修者決定
	単位・卒業認定会議	年間評価(個別の指導計画)を伝え、単位の修得を議する
3月	面談(履修生、新規履修者)	個別の教育支援計画の評価と単位の修得を連絡 担任が個別の教育支援計画の次年度の目標、加除訂正等の確認
	係打ち合わせ(7)	今年度の反省と次年度の方向性

(5) 新規LS希望者についての取り組み

ア 「気づき調査」(令和2年度より実施)

【参考資料①】 気づき調査 個別シート

【参考資料②】 気づき調査 年次集計シート

- ・ 生徒一人一人の特性や実態を把握するために、「人間関係面」「行動面」「学習面」の3分野に分け、日常生活に困難を抱えているかどうかの質問項目を示した調査票を作成した。  
1・2年次生を対象に、日頃生徒と接している年次担当や教科担当の教員がその調査票を利用して該当項目を報告した。
- ・ 調査結果(教師による生徒の困難さへの気づき)を数値として見える形で提示し、HRや

教科における指導の改善やより相応しい指導の提案や LS の履修につなげるための指標として活用している。

- ・ 導入3年目ということで、教員の気づきが増えてきている。この調査によって、教員全体が生徒の困り感を感じ取るために積極的に生徒を観察していることがうかがえている。

#### イ 生徒・保護者の面談用（聞き取り）シート（令和4年度改訂）

##### 【参考資料③】面談用シート

通級による指導を受ける場合は、小・中学校と同様に個別の教育支援計画を作成している。これは、学校のみならず、福祉・医療等の外部機関と連携し、特性に起因する課題やそれに応じた指導・支援方法を明確にするために作成するものである。担任が特別支援教育コーディネーターに相談しながら作成することとなっているが、初めて作成する先生方が多く、コーディネーターの負担が大きいことが課題であった。

そこで、面談用シートの改訂を行った。聞き取る項目を「生徒と保護者」「保護者のみ」に分けることで、課題や困り感となっていたことを、これまでよりも客観的に見ることができるようになった。この面談シートをもとに個別の教育支援計画を作成している。

また、面談の際に、生徒が知能・心理検査を受けることを依頼し、検査後にその結果を共有することで、より有効な支援策を講じることができている。

#### (6) 指導体制の再検討（令和4年度より）

これまで、2名の教員が年間固定でCTを担当してきたが、今年度は、生徒の状況や単元に応じて役割の変更を行い、5名の教員が担当した。また、LSIにおいて、生徒のニーズ「同級生と関わりをもちたい」や生徒の実態「同級生同士のモデリングが良い刺激になること」から、個別指導ではなく、1パートに2名の生徒がいる環境も設定した（5名中4名）。当初は相手の様子を探りながらの関わりだったが、次第に打ち解け、生徒同士で意見交換をするような場面も見られた。教員を介さなくても話すようになり、授業中に生徒同士で私語をするまでになった。また、授業中の活動を生徒同士で取り組むことが増え、この授業を楽しみにしている様子もうかがえた。

##### 【指導体制】

LSI：生徒1名に対して担当2名（CT1名 ST1名）

生徒2名に対して担当4名（CT1名 ST3名）

LSII：生徒2名に対して担当2名（CT1名 ST1名）

#### (7) 「通級による指導」年間授業計画の再検討

自立活動の内容6区分※②27項目（学習指導要領「自立活動」より）に基づいて、本校生徒全体の実態に合わせて令和2年度より計画を立てた。

- ※② 【自立活動6区分】 ①健康の保持 ②心理的な安定 ③人間関係の形成  
 ④環境の把握 ⑤身体の動き ⑥コミュニケーション

特に、上記表の②、③、⑥の区分に重点を置いている。

令和2年度に年間授業計画の基となるものを作成し、令和3年度には、学期毎に似ている単元を固め、指導時期を変更するなど学習内容の定着ができるよう指導計画の見直しを行った。今年度は、卒業を控えた4年次生徒や緊張が強いため会話をすることが難しい生徒など履修生徒の実態幅が広がってきたため、生徒に応じて進路にまつわる学習や担当教員との関係を深めるといった活動に適宜変更を加えた。昨年度とは異なり、年間授業計画を基本としてはいるが、より実態に応じた指導の変更もできるようになった。

【R4年度 年間授業内容】

学期	月	回	LS I		LS II	
			目標		目標	
			ア 自分の特性を把握する イ 落ち着いた情緒で生活するための基礎をつくる		ア 社会性の向上を図る イ 協働する意識を高める	
			5時間目	6時間目	5時間目	6時間目
1 学期	4	1	LSの概要・面談	ゲームを通して、気持ちを考える。	LS IIの説明・自己理解	出退勤の練習 日誌の書き方
		2	あいさつ・自己紹介の型	聴くスキル 5つのポイント	なぜ働くのか？ KJ法	作業学習（事務作業）
		3	人との距離 パーソナルスペース	聴くスキル 5WIH	なぜ働くのか？ KJ法	作業学習（事務作業）
	6	4	話すスキル 非言語の大切さ	話すスキル 詳しく伝える	ゲームをから学ぶ・ 自己理解	作業学習（事務作業）
		5	話すスキル 非言語の大切さ	話すスキル 詳しく伝える	ゲームをから学ぶ・ 自己理解	作業学習（事務作業）
		6	話すスキル ポジティブな言い回し	顔が見えない会話 (SNS)	自分の行動を 分析する	作業学習（事務作業）
		7	話すスキル ポジティブな言い回し	顔が見えない会話 (SNS)	作業学習（事務作業）	作業学習（事務作業）
		8	話すスキル (まとめ)	作業学習 (他者と比較)	自分の行動を 意識する	作業学習（事務作業）
		9	集団LSの振り返り	課題対応能力	自分の行動を 意識する	作業学習（事務作業）
		10	自分にかかる お金	課題対応能力	短所の向き合い方	作業学習（事務作業）
7	11	1学期の振り返り	1学期のまとめ	インターンシップ 事前学習	インターンシップ 事前学習	
	2 学期	12	1学期と夏休みの 振り返り	話すスキル	インターンシップ 事後学習	インターンシップ 事後学習
		13	話すスキル	聴くスキル	インターンシップ 事後学習	インターンシップ 事後学習
		14	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント	決まり文句	作業学習 (サービス業)
		15	複雑な感情	対処するスキル	決まり文句	作業学習

【変更】  
職業を知ろう  
自分に合う職業

【変更】  
関係を深めよう

		16	アンガーマネジメント	対処するスキル	リスクマネジメント 事態の蓄積	(サービス業) 作業学習 (サービス業)	
		17	ルールとマナー	対処するスキル	リスクマネジメント 事態の蓄積	作業学習 (サービス業)	
		18	自分のやりたい職業 を見つける	職業体験 (適切な関わり方)	リスクマネジメント 事態の蓄積	作業学習 (サービス業)	
	11	19	対処するスキル	職業体験 (困ったとき…)	リスクマネジメント 事態の蓄積	作業学習 (サービス業)	
		20	ストレスサー	職業体験 (まとめ)	作業学習 (サービス業)	作業学習 (サービス業)	
		21	質問するスキル	自分の気持ちの 切り替え方	作業学習 (サービス業)	作業学習 (サービス業)	
	12	22	LSⅡ見学		作業学習 (サービス業)	作業学習 (サービス業)	
		23	2学期の振り返り	冬休みの計画	作業学習 (サービス業)	作業学習 (サービス業)	
		24			インターンシップ 事前学習	インターンシップ 事前学習	
	3 学期	1	24	2学期と冬休みの 振り返り	自分の課題とは インタビュー		
			25	質問するスキル	自分の気持ちの 切り替え方	インターンシップ 事後学習	インターンシップ 事前学習
			26	1年間を振り返る	1年間の評価と 次年度の目標	1年間を振り返る	1年間の評価と 今後の目標

#### (8) 授業前打ち合わせ方法の模索

年間授業計画・学習指導案などをもとに、授業打ち合わせや授業実践を行い、また特別支援学校との連携を深めることで自立活動の指導力向上を図ってきた。

##### ア 生徒に応じた手立て（事前打ち合わせと個々の指導の実施）

授業は、CTが授業の進行、STが生徒の様子を見極め、有効な支援を実施している。対象生徒は、異なる特性をもち、比較的軽度な発達障害を有する者からグレーゾーンと呼ばれる知能指数を有している者もいる。そのため、授業前の打ち合わせを実施し、「前回の授業の生徒の様子」「今回の授業の目標と指導内容」「今後の通級担当の業務」などを確認している。

生徒の様子に応じて、指導方法等を検討・修正し、適切な指導・手立てや配慮を確認している。前年度までは、担当者全員が集まり、授業の打ち合わせを実施していたが、今年度は、担当全員が集まれる時間は確保できなかったため、授業を担当するCTと今年度初めてLSを担当する先生を中心に実施した。

また、今年度は、これまでと比べ、生徒の実態差が大きいため、授業の目標や指導内容が生徒に合わないことが予想された。

それぞれに合わせた目標の設定と支援の方法を共有するため、他の生徒の担当も打ち合わせに参加できるよう、次の2つを取り入れた。

#### 【参考資料④】 Teams ノート機能

「Teams」に授業データ（指導案・プリント・スライド）と「打ち合わせ記録」の電子データを共有、授業後の評価・次回授業の目標、業務予定を担当各自が入力するなど、ICTを用いた情報共有を試みた。

このことで、その時々の生徒の実態をより明確に把握でき、また担当教員の業務のスリム化にもつながった。

#### 【参考資料⑤】 打ち合わせ記録

授業後の個々の評価や次回の授業の目標の設定を記した。これらを蓄積していくことで、生徒一人一人に対する手立ての引き出しを増やし、個別の指導計画作成や修正のための参考資料としている。根気のいる作業となるが、こうした積み上げから、本校の通級による指導の体制の幅を広げていきたい。

#### イ 特別支援学校のセンター的機能の活用

研究1年目より、ふじざくら支援学校の先生に授業を参観していただくとともに、授業者の生徒に対する関わり方、特別支援学校の先生方から見た生徒の見立てなどについて専門的な助言をいただいている。今年度は2回実施した。

他校種からの意見・視点は、本校職員に特別支援教育に関する知識を高めるために必要であり、また、特別支援学校の先生方にとっても高等学校における特別支援教育の実態を知る機会になり、お互いにとって有益になると考えている。

#### (9) 指導内容について

前回の研究で取り上げた次の項目を今年度も継続して行い、指導に取り組んでいる。

##### 【各授業共通】 UD（ユニバーサルデザイン）教材、指導手順のモデルを作成

- ・ 単元ごとに自作のプレゼンテーションのスライドやプリントを用いた授業  
イラストやアニメーションを随所に取り入れ、視覚的に場面をイメージできるようにしている。スライドの切り替え時には、音を鳴らすことでメリハリをつけ、生徒の集中を持続できるようにしている。学習内容をまとめられるようにプリントを毎授業用意している。
- ・ 授業展開のルーティン化
  - ① ウォームアップ
  - ② インストラクション
  - ③ モデリング
  - ④ リハーサル
  - ⑤ フィードバック
  - ⑥ ホームワークの順で毎回同じ流れにすることで、生徒が見通しを持てるようになり、心理的な安定につながっている。
- ・ 題材のリアル化  
題材に関する教員の体験談をもとに生徒の経験を引き出し、題材をより身近に感じられるようにしている。

- ・ モデリングやリハーサル等の活動を取り入れ  
机上の学習での理解にとどまらず、人とのやり取りをゲーム化した活動や職業体験活動



#### 【LS I】主に個別での実態に合わせた指導

- ・ 人との関わり方のルールや手順を教え、ゲーム等で疑似体験できるような活動を設定  
コミュニケーションに対する苦手意識を克服できるように、人と関わる時の方法を場  
面に応じて使い分けることの重要性やポイントを伝える。
- ・ 授業始めの10分間にフリートークを設定、アイスブレイク  
信頼関係の構築と年間授業計画にはない各生徒の実態に合わせた指導として行う。
- ・ 月に1回は全LS I履修生徒と合同授業（小集団）  
同年代とともに行う活動を通して、他の生徒の考えに触れ、より自分自身を客観視でき  
る状況を作っている。「集団参加の練習」という位置づけとしている。



#### 【LS II】集団活動やコミュニケーションに関わる指導

- ・ 授業を“架空の会社”と見立てた活動  
生徒＝新入社員、教員＝指導担当者とし、研修を行う設定で教室内の環境を整備し、指  
導を行う。
- ・ 活動の中での他者とのやりとりが第1のねらい  
作業活動を通して、主体的に適切なコミュニケーションをとろうとする意欲や力の育成  
のために意図的にやりとりの場面を設定し、より実践的なコミュニケーションの指導を行  
う。同時に手指の巧緻性などの能力の向上もねらっている。
- ・ インターンシップの実施  
就労に向けて実際に働く経験を通して、企業からの評価を受け、自らの職業適性を知る  
機会とし、長期休業中に実施している。今年度は来年度卒業予定のLS Iの生徒も参加した  
(卒業年次の夏季休業中は、進路指導を優先するため)。



(10) 評価・指導の見直しについて（自己評価アンケート）（令和4年度より）

【参考資料⑥】自己評価アンケート

前年度までは、各授業の学習指導案に「ねらいに対する評価」欄を設け、授業後にSTが評価を書き込んでいた。それらを学期毎に集計し、年間を通して評価してきたが、担当者の主観にやや影響され、時に評価が明瞭ではないことが課題であった。また、今後、多くの教員が通級による指導に携わっていくためにも、客観的に評価するための基準となるツールがあることによって、担当者に求められるハードルを下げることにもなるのではないかと考えた。そこで、令和4年度は、桜美林大学で認知行動療法を専門的に研究している小関俊祐准教授にご助言をいただき、年間授業計画に沿った自己評価アンケートを作成した。

より適切な評価にするために、各単元に関連する質問項目とそれに対する4段階の評価項目を設定した。年度初めや学期末などに定期的実施し、学習内容の定着状況や生徒の変容を把握し、それを踏まえて授業の手立て等をより実態に合う形に修正することができている。

また、学期末にアンケートを行った際、ある生徒が質問項目を読み、「あー、この前の授業でやった内容だなー。」という発言もあり、生徒にとっては勉強をしたことの振り返りとなっている。教員からは生徒の学習状況の把握にもつながっている。

## 4 課題と今後の研究計画

「【参考資料⑦】生徒概要・手立て・評価」は、今年度の履修者についての実態把握、手立て、評価をまとめたものとなっている。個々に合わせた指導を行うためには、履修前の正確な実態把握(本人・保護者の教育的ニーズも含む)、的確な目標設定、目標を達成するための指導内容、ねらいを達成するための手立て・支援、学習に対する評価、学習後の実態把握、さらなる目標設定を繰り返す、一連の流れが途切れないことが重要である。その流れを年次や通級担当などが徐々につなげることができたのではないかと考える。これが次年度以降の校内体制でも、一定の水準で「通級による指導」を継続運営していくための指導記録の蓄積となっている。このことを踏まえながら、次年度に向けて次の課題に取り組んでいく。

(1) 生徒に応じた支援・指導について（年間授業計画）

(課題①) 年間授業計画と生徒の実態が合わない

本来、通級による指導は個々の特性に応じて計画するものであるが、本校の通級による指導は履修者共通の年間計画が存在する。そのため、個々の特性に応じて、実践する手法を変えることで対応しているが、生徒の実態と指導内容にズレが生じることがあった。特に座学

による学習が多い（認知を伝え行動を変えるような）単元においては、ねらい通りに生徒が思考することができず、「ここは、〇〇と書くんだよ」と「伝えるだけの指導」になってしまいう時があった。

（今後の計画①）

行動を通して認知を変えるためにリハーサル活動のような時間を多く取り入れる必要性を痛感した。また、生徒の実態に応じて、より有効な手段が変わってくるため、より正確な実態把握を行い、年間授業計画を改訂し多様な指導方法を取り入れていく必要もある。

さらに、各単元のねらいの再設定や活動内容の精選が必要になっている。同じパート内でも学習内容によっては、授業のねらいが異なるはずであり、常にペアの授業にするのではなく、個別の時間を設定することも検討する。

（2） 評価、生徒の変容について

（課題②） 自立活動と各書式との関連付け

年間授業計画の内容に関連付けて自己評価アンケート作成してきたが、自立活動6区分27項目と個別の指導計画、年間授業計画、自己評価アンケートを相互に関連付けていない現状がある。

（今後の計画②）

自己評価アンケートの質問項目について、自立活動の6区分（主に心理的安定、人間関係の形成、コミュニケーション）とも関連するよう必要に応じて修正を加え、より客観的な評価に近づけられるようにしていく。また、来年度に向けて、個別の指導計画の書式改訂を考えている。自己評価アンケートと自立活動6区分27項目との関連性がより明確になる形にすることで、担当教員がそれらを意識して指導できるようにしていく。

（課題③） 授業内だけにとどまらない生徒の変容の支援と課題の実態把握

これまでの履修者は、2年間の学習の中で、小さな変容ではあるが、少しずつ自己理解が深まり、「他者に頼る」「計画的に物事に取り組む」「人と関わることの楽しさを感じる」といった様子が見られるようになってきている。しかし、これらをLS内ではできるようになったとしても、日常生活全般で般化していかなければならない。また、成長の一方で、新たな課題が浮き彫りになることもあり、その課題を関係する教員が把握し、指導を行うことが重要となる。例えば、他者とコミュニケーションをとりたいと思うようになってきた生徒が、間違った関わり方をしてしまい、新たなトラブルにつながるケースが考えられる。

（今後の計画③）

本校には、全校生徒の情報共有を行う生徒情報交換会がある。その場で、学校職員に対し、通級による指導から適切な支援や合理的配慮に対する指針を示していく予定である。

### (3) 就労に向けた取り組みについて

#### (課題④) 卒業後の進路・支援

本校で支援を行ってきたが、卒業後もつながりのある支援が受けられるよう、卒業後を見据えた指導をしていく必要がある。

#### (今後の計画④)

本校を卒業し、社会に出ても支援を受けられるように外部機関とのつながり方を生徒・保護者に伝えていく。一般企業への就職や障害者雇用、福祉サービスを利用するといった福祉就労など、様々な状況においてどの外部機関との連携が良いのかを今後も模索していく。

### (4) その他の課題

#### (課題⑤) 通級指導を受けさせたい生徒が必ずしも全員履修しているわけではない

本人、保護者の理解がなければ履修につながらないケースもあり、現在の履修者以上の困難さを抱えているが履修していない生徒がいる。実際はこういった生徒への対応・進路指導に教員は苦慮している。「生徒・保護者に特性等への困り感がない」「外部機関との連携という高いハードルがある」「特別な個への指導を求めている」などの理由から履修につながらないケースが多い。通級による指導の履修は、生徒・保護者の双方の希望が前提のため、生きづらさや特性の認識というデリケートな問題が絡んで、一朝一夕には克服できない課題となっている。

#### (今後の計画⑤)

授業や実践報告、学校 HP による情報提供などの地道な成果の積み重ねが、やがては「指導を必要としている生徒へ指導が届く」ことを期待し、今後も丁寧な指導を継続していく。

#### まとめ

次年度も継続して、研究を進めていき、通級による指導と合わせて本校の教育環境の中で取り組める特別支援教育の充実を模索する。4年間の研究期間にとどまらない「持続可能な通級指導構築」のためにも、各方面との連携は、必要不可欠である。関係各方面の一層のご理解とご協力を切に願う次第である。

## 5 その他（別紙）

【参考資料①】 気づき調査 個別シート

【参考資料②】 気づき調査 年次集計シート

【参考資料③】 面談用シート

【参考資料④】 Teams ノート機能

【参考資料⑤】 打ち合わせ記録

【参考資料⑥】 自己評価アンケート

【参考資料⑦】 概要・手立て・評価